



今年度最初の研究授業がありました

今年度、松梅校では、特別の教科「道徳」について研究しています。子どもたちが、授業の中で、自ら考え、また学んだことを相手に伝えたり、生活の中で生かしたりできるようにするためには、どのような手立てや発問をすればよいのかを探っていきます。そのために、全ての教員が研究授業として授業を公開し、手立てや発問の有効性や改善点について確認します。その1回目が、9月18日(水)にありました。「よりよい学校生活・集団生活の充実」をテーマに、小学2年生、5年生、中学3年生の研究授業がありましたので、報告します。

小学2年生「ひかりしょうがっこうのじまん」

二人の子どもが自分の学校の自慢を探して、校長先生に尋ねに行く話をもとに、松梅校の自慢は何かを考えました。

自分で考えたり、ヒントカードから選んだりしながら、松梅校の自慢できるところをたくさん探すことができました。

笑顔で一糸懸念考えている姿が印象的な授業でした。



小学5年生「かれてしまったヒマワリ」

自分の役割である花の水やりを怠ってしまった主人公。緑を大切にしている学校で、ひまわりの半分を枯らしてしまうという話をもとに、「役割」について考えました。役割を果たすということは、集団生活をスムーズにしたり皆が気持ちよく生活できたりするだけでなく、自分自身を成長させてくれるものだということに気づけた時間になりました。

積極的な交流や発言が多く見られた授業でした。



中学3年生「受けつがれる思い」

グラウンドづくりから始め、サッカー部を作った主人公。友達とぶつかりながらも最後までやり遂げ、グラウンド整備という伝統を築いたという話をもとに考えました。この集団が卒業時、10年後はどうなっているのかをイメージすることで、伝統を作るにはやり遂げることが必要だと気づけました。

自ら動いて考えを伝え合い、友達のよい考えを積極的に紹介する姿が印象的な授業でした。



今回の研究授業は10月16日(水)。「節度・節制」をテーマに、小学1年生・5年生、中学1年生・2年生で授業が行われます。